

波瀬駅
ウォーキングコース
宿場の道



見どころスポットが多く、一休みしながらのんびり自然散策を楽しむコースです。

はげ
波瀬本陣周辺
宮前・七日市と共に和歌山街道の宿場として栄えた。
現存するのは本陣・中村屋のみで、他に油屋、宇陀屋、大坂屋、松屋などの旅籠があった。



円覚山 地蔵寺は曹洞宗のお寺。永年2年(1505)、北畠氏の家臣、峰氏が父母菩提のために創建し、地蔵菩薩を本尊としたと伝わる。数度の火災により古記録等は焼失し、現在の本尊は昭和9年のもの。

地蔵寺

五輪塔



陶芸空間 虹の泉
飯高町森出身の陶芸家 東健次(あずまけんじ)氏が生涯をかけて製作した野外美術館。昭和56年(1981)から1人で製作に打ち込み平成25年(2013)に没するまで作り続けた。ルネサンス風の神秘的な世界が広がる。



おふく茶屋



ハゼユリ



乙菓子橋



波瀬(はげ)植物園
この地で林業を営んできた田中家が、自然の地形を活かしてつくった植物園。樹齢200年超の銘木林や、5万個に及ぶ銘石などを配し、季節毎の花木が園内を彩る。
主な花木…サゼンソウ(3月下旬)、ミスバショウ(4月下旬) シャクナゲ、ドウダンツツジ、バイケイソウ、ハゼユリなど。



波瀬駅
ウォーキングコース
巡礼の道



『巡礼の道は』、全長約6.2kmと長くはありませんが、コースの約半分(3.2km)が勾配のある参道なので、ゆとりを持って歩いてください。見どころは、折り返し地点でもある天開山 泰運寺。元文5年(1740)泰運了啓大和尚によって開かれた曹洞宗の寺で、本尊は子安観世音菩薩像を安置しており、子宝や安産にご利益があります。境内には、珍しい八角の梵鐘や、十三重塔、キリシタン灯籠、大黒堂などがあるほか、春は「やすらいの参道」沿いに桜が舞い、秋は「彩の道」が700本ものカエデ・もみじに彩られます。参道沿いに鎮座する33の観音像は、江戸時代の泰運寺8代和尚が「西国三十三所の写し霊場として設置したと伝わります。災害等で33の観音像には欠損や破損がありましたが、近年、全ての像が修復され、西国三十三所巡りが復活しました。

西国三十三所巡礼について

『中山寺由来記』に、「養老2年(718)徳道上人が62歳のとき、間魔王に会い、巡礼によって人々を救うように託宣を受けるとともに起請文と三十三の宝印を授かり現世に戻され、この宝印に従って霊場を定めた」と記述されています。この三十三という数字には意味があり、「法華経」普門品第二十五(観音経)に、観音菩薩が33の姿に身を変えて人々の心の悩みや苦しみを救うと説かれ、「いつ、いかなる困難に出会っても、観音菩薩は慈悲の心で常に人々を見守っておられる。観音様にお参りし手を合わせることで私たちを救ってくださる」という信仰が生まれたのです。この観音信仰はいつの時代も、日本人の心を救い、抛り所になってきました。

『西国三十三所巡礼の旅』ホームページ、西国三十三所礼会 会長 石山寺 鷲尾遍座主のごあいさつより抜粋



たいうんじ 泰運寺(八角梵鐘)
高さ2.42m重さ4.87tの梵鐘で、八角形の珍しい形をしている。各面には法華経が1巻ずつ7万の文字が刻まれ、内側にも泰運寺記や寄進者らの名前が刻まれている。県重要文化財 彩の道



十三重塔



西国三十三所写し霊場 第一番観音像



彩の道

泰運寺 境内マップ



↑ 至 泰運寺

